

平成 28 年度学力向上アクションプラン

【1】学校の状況と地域の実態

- 全学年教科書レベルの基本的な内容を理解できている生徒が多い。また授業への取り組みも前向きで、始業前には学習の準備を済ませている。発表にも積極的に取り組んでいる。
- 全体的に規範意識が高く、あいさつなどもきちんとできる等、多くの生徒は規則正しい学校生活を送っている。
- 地域と学校の関係は良好であり、学習ボランティア等の活用も行っているが、具体的な場面では、まだ改善の余地がある。
- 教員は、生徒の興味・関心を高めるよう授業改善に取り組んでいるが、個々での取り組みが中心であり、組織的な取り組みまでには至っていない。

【2】学力向上に関する指導の目標・方針

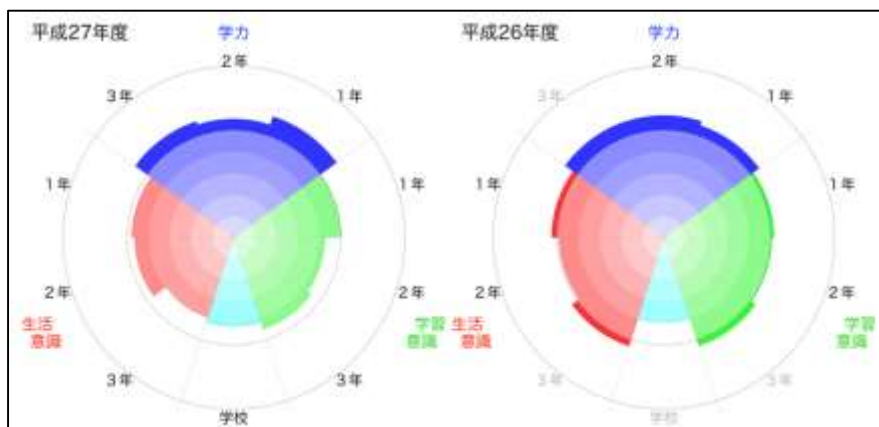
- 生徒理解に一層努めるとともに、自己肯定感・規範意識をより高め、一時間の授業に集中できる生徒を一層増やします。
- 少人数やチームティーチングをより進め、一人ひとりの生徒のニーズや個の習熟に応じた学習を充実させることによって、「授業が分かる」「好き」と回答する生徒を増やします。
- 教員の授業力向上をめざし教科内での授業研究を実施し、「わかる授業」「楽しい授業」の実現を図り、言語活動の充実に努めます。
- 学校と家庭との連携を図り、家庭学習のアドバイスを積極的に行い学校への満足度アップを実現します。

【3】横浜市学力学習状況調査等から平成 27 年度の実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

学力に関して、横浜市の平均を大きく上回っている状況である。生活意識・学習意識に関しては、1年生は横浜市の平均レベルであるが、2・3年生は下回っている。

学力向上している反面、意識の面の低下が明確であるので、組織的な取り組みが必要である。



(2) 教科学習の状況

- **国語科** … 1年生は全体として、どの領域も市の平均をほぼ上回っており、学習内容が定着しえ散ることがわかる。また個々の正答率をみると、下記ことについては基礎・基本問題、活用問題ともに正答率が高いことがあげられる。2年生も、どの領域も市の通過点を上回っているが、「書くこと」について、自分の意見を述べることの正答率が低く、今後の課題となる。
- **社会科** … 全学年全ての領域で市の平均を上回り、特に技能面では高い水準を維持しており、資料などから読み取る力がついている。
- **数学科** … 全学年、知識・理解の観点の定着がされているが、見方や考え方の観点の定着がされていない。学年によって、数学的な技能の観点の定着に差が出ている。
- **理科科** … ほとんどの観点で市の平均を上回っており、基本的な内容はおおむね身に付いている。理科に対する意識の向上ができるような取り組みがさらに必要となる。
- **英語科** … 全学年、すべての領域で市の平均を上回り、基本的な内容はおおむね身に付いている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

国語科の結果からみられる書く能力が上回った分、話す能力・聞く能力が低下している。この傾向が各教科にもあらわれている（学年によって若干異なる）。具体的には、知識・理解が高い水準で推移しており、いわゆる学力の向上については見て取ることができる。しかし、思考・表現に該当する部分が、市の平均程度の教科も目立ち、自らで考える力の育成が今後の課題となる。

「学校のきまりを守っている」「あいさつは自分からします」に関して、全市と同じレベルで推移している。前年度は、全市より上回っていたので、今後の課題として、規範意識を身に付けさせることが必要である。しかし、現2・3年生だけをみると、全市を上回っているため、規律ある学校生活と落ち着いた環境での授業が、生徒たちの学力向上につながっていくと思われる。

【4】平成28年度 目標と具体的方策

【平成28年度目標】

わかる授業の実践を通して、基礎的な学力の向上を図る。

(1) 学校組織としての共通の取り組み

- **個に応じた指導の充実**
 - ・ 少人数指導・習熟度別指導の推進し、より効果的な指導法をさらに研究します。
 - ・ 教育相談を計画的に実施し、なおかつその機会を増やし、学習の方法や進め方など生徒の学習の支援を推進します。
 - ・ 授業展開を工夫して、個に応じた教材作り等を推進します。
- **「わかる授業」展開とその指導**
 - ・ 教員、保護者、生徒の三者による授業評価アンケートを実施し、授業改善を図ります。
 - ・ 小中一貫カリキュラムの改善により9年間（7年間）を見通した授業展開をします。
- **家庭学習の習慣化と学校・家庭の連携**
 - ・ 全教科で「言語活動の充実」に努めます。
 - ・ 教科内で授業研究を進め、各教科で「わかる授業」についての研究協議を実施します。
 - ・ 家庭学習方法の習得のための手引き書等の作成及び、その活用についての指導をします。
 - ・ 地域人材の活用のためのシステムを構築します。
 - ・ 「読み・書き・計算」の基礎学力定着のための時間設定などについて検討をします。



(2) 学年・教科等の取り組み（「わかる授業」の展開とその指導）

国語

- 書くことに関して、日常の授業の中で、根拠を明確に書くことや、書いた文章について、生徒たち自身で相互評価をする活動などを意識的に取り組んでいく。
- 書くこと以外の領域では、繰り返し学習を行い、基礎力をさらに固めていく。

社会

- 今後の学習に対する見通しをもてるように、単元の導入に映像や資料を活用して興味・関心を高める。
- 自分の考えを深めることができるように、少人数による話し合い活動を計画的に取り入れる。

数学

- 新しい単元に入る前に今までの学習内容を復習し、学習状況を把握して手立ての工夫や補習等を計画する。
- 数学的活動を重視し、身近な生活と関連付けた学習を意識した授業の展開を心がける。

理科

- 観察・実験をより充実させ、興味・関心をより高める。
- 自分の考えを深め、科学的な思考力を身に付けられるように、言語活動を計画的に取り入れる。

音楽

- 合唱コンクールでは、生徒がより主体的に学習できるように教材提供をし、協力して合唱に取り組むようにする。
- 器楽領域では、基本的な内容を反復練習させるとともに、曲想などを工夫して表現できる力を養う。

美術

- 生徒一人ひとりが意欲的に取り組み、基礎・基本が定着でき、事故の表現活動につなげることができるような魅力的な題材の提供を図る。

保健体育

- 基礎的な知識や技能を確実に身につけるとともに、それらを活用して考えたり、工夫したりしながら運動や健康安全に関する課題解決を図る。
- 生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力向上を図る。

技術・家庭

- 小学校や他教科での既習事項や生活体験・興味関心を把握し、生徒の資質・能力を踏まえ題材設定を行う。
- 実践的・体験的活動の充実を図る中で、生徒自ら問題解決できるような題材を設定する。

外国語

- コミュニケーション活動をより多く授業の中に設定する。
- ユニットごとに身に付けるべき内容を明確にし、確認のためのユニットテストを実施する。

特別活動

- コミュニケーション能力を育み、よりよい人間関係を築かせるために行事活動の充実を図る。
- 話し合い活動では、相手の考えや思いを尊重し、協力して問題解決する態度を育てる。

総合的な学習の時間

- 職場を選択する活動を通して自分への気付きを深め具体的な行動につなげて考えるようにする。
- 体験で学んだことを整理分析することで、自己の将来について考えを深められるようにする。

個別支援

- 言語環境を整え、言語に関する能力の育成を図る。
- 個別の指導計画に基づき、授業形態や学習集団の構成を工夫し、指導の充実を図る。